

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」岡山福富校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 15日		2024年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2024年 11月 15日		2024年 12月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各指導員の支援の技術の高さ	・指導員の固定感を出さずに1人の利用児に対して複数人で関わりを持ち対応している。 ・普段から支援内容の情報共有を行い、支援の引き出しを多くしている。	・引き続き1人1人の利用児に対して複数人の指導員で対応を続け、更に支援の質を上げていく。 ・経験則による引き出しが強いいため、専門性が強い引き出しを更に多くしていく。
2	朝礼を通して簡易的な事例検討会を行っている。	・朝礼の際に、1日前の利用児の様子を職員間で共有し、対応方法を職員全員で検討する。 ・普段から利用児の情報を共有することにより、指導員皆が些細な変化を認識しやすい環境にしている。	・法人内他事業所と共に朝礼を行い、教室にとどまらず多角的な意見を出し合える環境を整備し、支援の質を高めていく。
3	担当制ではなく1人の利用児に対して複数の指導員で対応している。	複数の指導員で対応することにより、支援内容に固定感を出さずに人との関わり方を持つことができる。	複数の指導員で支援を行うと同時に、小集団の支援も行い、利用児間での関わりを持っていただく。 ・状況に応じて、法人内別事業所と連携を行い、情報共有を行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	指導員による支援の技術に差がある。	支援員の経験の違いによる技術と知識の差が発生している。	・知識・技術を共有する時間を設け、支援の勉強会等を行っていく。 ・各自、調べたい専門性を調べ定期的に共有して育、専門性共有会を教室で行っていく。同じジャンルで重なった場合は、複数人で調べても良しとする。
2	運動できるスペースが狭い。	・ホワイトボード・パーテーション等の設置により広いスペースの確保ができていない。 ・放課後デイサービスの利用児が使用する机が大きく粗大運動を行うスペースの確保が難しい。	教室備品の配置の再検討を行う。 不必要なホワイトボードは、処分・他事業所に譲る等の対応を行っていく。 大きい机は、壁際に引っ付けるように設置し活動がしやすいように調整していく。
3	イベント等を行っているにも関わらず知らなかった利用児・ご家族様が多い。	・ニーズに沿っている利用児・ご家族様へのみ周知を行っているため、ご家族様間での情報に差が出てしまっている。	・周知を行う際には、各利用児・ご家族様に対して公平に周知を進めていく。 ・チラシのみの対応ではなく、SNS等を使用した周知も行っていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」岡山福富校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 25

回収数 15

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14		1		運動する時少しせまそう。	教室備品の配置の再検討を行う。不必要なホワイトボード等は、処分等対応を行っていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14			1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	5		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	1			先生によって力量に差があると感じる。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13	1		1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9	4		2		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	1				
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7	3	2	3		今後は、教室内で行うふれあい広場を地域に周知し、地域内にこどもの関わりを増やしていく。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12	2		1		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14			1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	3	1	2		教室内でママカフェ・パパカフェを行い、ペアレントトレーニングを行っていく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	15					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	1	1			事業所内相談の頻度を増やし、ご家族様の意向や今後の支援の要望等の確認を行っていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	2	1	3		教室内でママカフェ・パパカフェを行い、ご家族様に周知していく。 ※パパカフェを行っているがあまり周知ができていなかったと感じているため、周知にも力を入れていく。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	2		4		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	3				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	2	1	7	あまり見れていない。	定期的に保護者向けの配布チラシを用意し、SNSやホームページの周知を行っている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	2				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	1		7		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8		1	6		利用児参加の避難訓練を行っているが、周知ができていない利用児もいらしたため、全員にいきわたるように周知を行っている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	3		3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10	2		3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14	1			先生方が大好きで毎週楽しみ通っている。とても楽しみに行っています。きらりに行くのが毎週楽しみで仕方がないようです。いつも「今日きらりだよ！」と言うと「やったー！」と喜んでいきます。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	15				楽しく通っていてとても満足しています、ありがとうございます。	

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こどもサポート教室「きらり」岡山福富校	公表日	2025年 2月 15日
------	---------------------	-----	--------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	発着が増えてきており、以前よりも一人あたりの支援スペースが広くなくなったため適切ではなくありつつある。 各ブースをパーティションで仕切っている ホワイトボードで部屋を区切り、簡易個室で支援が提供できるようにしている。	放デイで使用しているサイズが大きい机を壁際に寄せて発着・放デイともに対応しやすい支援スペースを確保する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置数は適切であるか。	7			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	玄関の階段、手すり等もない 支援内容は絵カードにて提示している。 発着、放デイが混雑する時に、音が気にならないように工夫する必要があります。 情報の視覚化など、誰が見ても分かりやすい表示をしている	玄関前の階段は物理的に改修が困難なため、利用児が到着した際に玄関前までお迎え行き、利用児が事業所を出発する際に車まで送り安全を最優先で対応していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎朝清掃を行っている。また、壁面などを季節に合わせて物に適宜変更している。 支援道具の整理、置き場所の統一が必要	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	2	簡易的な個室はあるが完全個室はないため、声は聞こえている。 個室がない事業所なので、個別の部屋が必要な時はパーティションで対応しています。	声や騒音が気になる利用児は、事務所に簡易的な静養室を用意し落ち着いて過ごせる環境を提供する。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		毎日の朝礼で、支援の在り方や悩みを相談でき、目標などが定められるように導いてくださる。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		入社後初の評価表のため、これから把握していく必要がある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎朝ミーティングを行っている。また、定期的に校舎内でできる改善点などについて話し合っている。 問題が生じた時に、その都度報告し、朝礼やミーティングなどで改善策を考えている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		最寄りの相談支援事業所の担当者に事業所のアンケートの記入を依頼し、いただいた評価を参考にし業務改善を進めていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		法定研修や事例検討などを設けて支援の質の向上に励んでいる。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		支援に悩んだときは、自発的に相談の上、アドバイスを受けながらプログラム出来ている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		全体で確認できるように朝礼などを設けています。 それぞれが支援ファイルを読み込み、支援目標などをまとめている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		現在家族支援が必要な児童の自宅に家庭連携に行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		基本的には担当がプログラムを立案しているが、何かあれば全体で話し合いを行い方向性を考えるなどの活動もおこなっています。 朝礼で、振り返りをしながらその時のテーマで話し合いができています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		あえてした方がいいものもあるため、本児の様子や取り組みの様子から保護者の方と相談させてもらっています。 お子さんの様子を見ながら、改善点は話し合い、大幅に轉ることもある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	個別療育が基本であることから支援計画は集団の文言が入ることはあまりない。しかし、必要な児童には小集団も行っています。	基本的には個別療育の事業所ですが、必要に応じて小集団の療育も行っています。引き続き、利用児のニーズや状況に応じて小集団療育の対応も行います。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝ミーティングでその日の支援や担当について話し合っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		次の日のミーティングで前日の振り返りを行っている。 朝礼を通して支援中どのような様子であったか確認できるようにしています。 日々の朝礼が、事例検討会のようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		支援記録は毎回データ入力を行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		保育園や小学校などの訪問し、見学なども積極的に行わせてもらっています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		個別から集団に移る課題の時を意識して支援計画を作成しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	2		利用児様のお母様が勤務している児童発達支援センターがあるため、定期的に支援のノウハウと情報共有を行い、支援の質の向上を図る。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	イベントの際には地域の子どもにも声かけして来所を促している。	今後は、教室内で行うふれあい広場を地域に周知し、地域内にこどもの関わりを増やしていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		毎回支援の後にフィードバックを行っている。 支援後には保護者の方にどのような様子であったか話をさせてもらっています。 フィードバックを丁寧に行い、家庭での様子も聞くようにしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		お子さんとの関わり方がわからないと言われる保護者に、支援の中でふれあい遊びや声掛けの仕方などを一緒に体験してもらっている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		事業所内相談を行い、利用者の方の希望をお伺いするようにしています。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		新規や更新のタイミングで説明を行い同意を頂いています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		フィードバックで近況を聞き、必要と感じた際には事業所内相談を行っている。 プラン更新毎に話をきいています。希望があれば随時相談対応しています。 保護者との信頼関係を築き、話しやすい状況を作っていくように心がけている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		パパカフェなどを開催し、他の利用者さん同士での交流の場を設定しています。 パパ・ママカフェなど定期的に開催している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	イベントチラシを地域の保育園などに配布し、希望者に参加してもらえるようにした。	今後は、教室内で行うふれあい広場を地域に周知し、地域内にこどもの関わりを増やしていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2	1時間の療育であるためおやつなどの提供は行っていません。	今後は、調理実習を行うことも考えられるため、事前にアレルギーの確認と医師の指示のもと対応方法のレクチャーをお願いする。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハットが起きた際には校舎で再発防止策を検討している。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7				
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7				